

平成 29 年 5 月 10 日

## チェルノブイリと福島を繋ぐ国際協力研究プロジェクト

### 『チェルノブイリ災害後の環境管理支援技術の確立』

#### プレスカンファレンス（キックオフミーティング）の開催について

福島大学環境放射能研究所が代表研究機関として本年度から開始する、国際協力研究プロジェクトのプレスカンファレンスを、ウクライナ国キエフ市において下記のとおり開催します。

福島大学環境放射能研究所は、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS※)において、研究課題『チェルノブイリ災害後の環境管理支援技術の確立』が採択されており、今年度から本研究プロジェクトが開始されます。

この度、本プロジェクトのプレスカンファレンス（キックオフミーティング）を、ウクライナ国キエフ市において開催します。

日本、ウクライナ両国の研究者、関係者が一堂に会し、本プロジェクトの取り組みをウクライナ国内に向け発信しますので、ご取材方よろしく願いいたします。

●日時：2017 年 5 月 29 日（月）（現地時間 10:00～）

●場所：ウクライナ環境・天然資源省（ウクライナ国キエフ市、予定）

#### 主な出席予定者

- ・ウクライナ環境・天然資源省大臣 オスタプ・セメラーク氏
- ・ウクライナ環境・天然資源省立入禁止区域管理庁長長官  
ヴィタリー・ペトルーク氏
- ・ウクライナ駐劄日本国特命全権大使 角 茂樹氏
- ・福島大学理事・副学長 小沢喜仁
- ・福島大学環境放射能研究所長 難波謙二

（お問い合わせ先）

福島大学環境放射能研究所 事務室

電話：024-504-2114

メール：ier@adb.fukushima-u.ac.jp

# チェルノブイリと福島を繋ぐ国際協力研究プロジェクト

参考資料

SATREPS

地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム 平成28年度採択研究課題

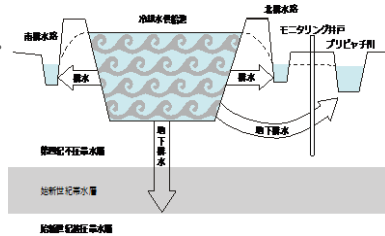
『チェルノブイリ災害後の環境管理支援技術の確立』



## 課題① クーリングpond水位低下にともなう環境変化の把握と予測

原子力発電所への冷却水供給源として設置されたクーリングpond（冷却水供給池）には、事故により大量の放射性物質が流入・蓄積しました。放射性物質の再移動を抑制するため、プリピャチ川の水をポンプで汲み上げ、水位を維持していましたが、2014年に廃炉措置の一環としてポンプが停止され、クーリングpondの水位は低下を続けています。この水位低下による環境変化や放射性物質の動態への影響を明らかにすることが求められています。

- 1-1 pond内の水および堆積物の汚染状況を把握する。
- 1-2 地下水系を把握する。
- 1-3 水圏、水辺の生物中放射性物質濃度把握する。
- 1-4 pond内の放射性核種の移行・挙動を予測する。
- 1-5 地下水系の変化を予測する。
- 1-6 水圏と水辺の生態系への影響を評価する。
- 1-7 天然試料の継続的なサンプリングと分析を行う。



クーリングpond周辺の水の動き（左：Bugai, 1997を基に作成）と現在のpond内の様子（上）

## 課題② 新しいゾーニング設定のためのモニタリング手法確立とモデルに基づく影響予測

原発事故から30年以上が経過し、立入禁止区域の放射線量は低下しつつあります。ウクライナ政府は廃棄物処理施設の設置や指定保護地区の設定など、立入禁止区域の再編を計画しています。こうした立入禁止区域内における活動を安全かつ適切に行っていくため、区域内における放射性物質の存在量や移行状況を把握することが課題です。

- 2-1 放射性物質の土壌中の側方・下方移行特性と初期降雨量および土地利用の関連について定量化する。
- 2-2 河川・湖沼における放射性物質の移行量をモニタリングし、モデリングを行う。
- 2-3 森林生態系における放射性物質の存在量を定量化する。



チェルノブイリ原子力発電所近傍を流れるプリピャチ川の様子

## 課題③ 広域的モニタリング・モデリングに基づく環境影響評価手法の確立

立入禁止区域内での森林火災や廃炉作業等にもなう放射性物質の再拡散が懸念されています。チェルノブイリ原発の100 km南方にあるキエフには約290万人が生活しています。住民の安全を担保するためには放射性物質の再飛散を常時監視する体制の維持・強化が必要です。

- 3-1 立入禁止区域内におけるモニタリングシステムの構築およびモニタリングデータベース作成により放射性エアロゾルの起源を特定する。
- 3-2 キエフ市内におけるモニタリングシステムの構築およびモニタリングデータベース作成により放射性エアロゾルの時間変化およびその原因を特定する。
- 3-3 大気拡散モデルを構築し、大気環境における放射性エアロゾルの影響を評価・検証する。



森林火災（実験）の様子

## 課題④ 環境管理および放射線防護に関する提言

課題①②③に関連する研究の成果を整理・統合するとともにウクライナの関係機関と協力し、環境管理および放射線防護に関する提言を行います。また、セミナー等を通じて、福島とチェルノブイリにおける環境放射能に関する情勢や取り組みについての情報共有を促進します。

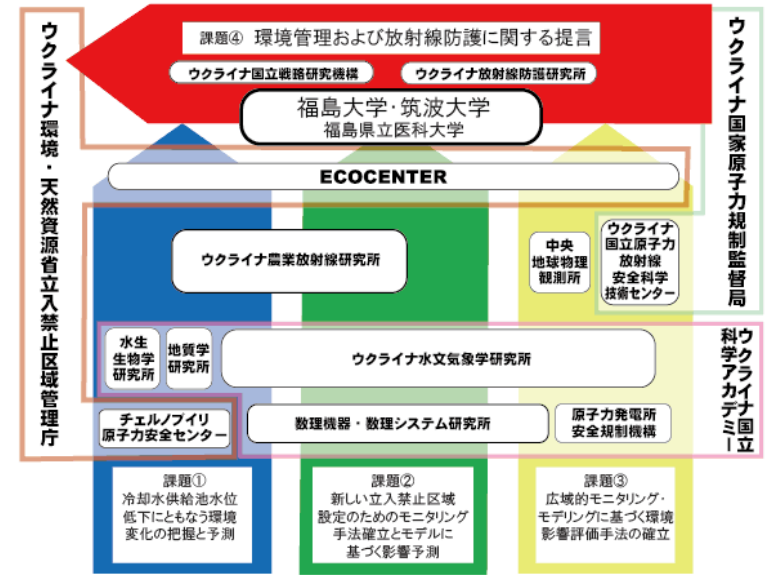
4-1 ウクライナ政府関係者への下記提案書の提出。

- (1) 福島の避難区域
- (2) 福島における環境修復技術
- (3) 立入禁止区域のゾーニングに関する研究結果
- (4) 環境修復に関する規制文書に対する推奨事項

4-2 ウクライナ政府機関・研究機関関係者の福島での見学・セミナーなどを開催する。



ウクライナ環境・天然資源省立入禁止区域管理庁(SAUZEM)での福島の状況に関する説明の様子



本プロジェクトの組織図

\*SATREPS (サトレップス) Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development 地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム

SATREPSとは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）並びに国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）と独立行政法人国際協力機構（JICA）が共同で実施している、地球規模課題解決と将来的な社会実装に向けて日本と開発途上国の研究者が共同で研究を行う3～5年間の研究プログラムです。（<http://www.jst.go.jp/global/about.html>）